

野菜・花き・果樹栽培における高温対策について

6月20日に新潟地方気象台より「高温に関する早期天候情報」が発表され、北陸地方の気温は、今後しばらく南からの暖かい空気が流れ込みやすいため、気温が高い状態が続くと見込まれています。

また、6月中旬以降、かなり降水量が少ない状態が続いています。

6月30日発行の日本農業新聞に高温対策に関する記事（裏面）が掲載されましたので、ぜひとも参考にして頂き、対策を実施して頂きますようお願い致します。

高温時によく発生する症状に、トマトの「尻ぐされ」や葉物類の「縁ぐされ」がありますが、これは高温時に作物内のカルシウムの移動が制限され、果実や葉にカルシウムが充分に行き渡らなくなるために発生します。



トマトの尻ぐされ症状

また、高温時には作物の活性が低下し、根からの養分吸収が円滑に行われなくなる場合があります。

これらの対策として、作物の葉から養分を吸収させる葉面散布剤の施用を皆様にお奨めしたく、下記の通り注文受付を行いますのでご利用して頂きますようご案内申し上げます。



りんどうの葉に見られた縁が白くなる症状。これもカルシウム不足が主な要因。

いきいき直売の会 R4 葉面散布剤 注文書

注文日： 月 日

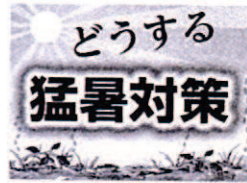
所属支所： 支所 注文者氏名：

商品名	規格	金額（税込）	注文数
葉面散布肥料 サンピ 833neo	液剤 1200g 入	2,160 円	本
カルシウム補給剤 カルプラス	液剤 1L 入	2,210 円	本

提出場所：所属 JA 支所

※商品は、注文受付後に順次お届け致します。

※サンピは 750～1000 倍、カルプラスは 400～500 倍に希釈して使用します。



Ⓣ

野菜 稲わら、刈り草で被覆

■露地・施設

野菜は高温下では土壌が乾燥して水分不足になりやすい。露地栽培では、地温が上がっ

たり、土壌から水分が蒸発したりするのを防ぐために、通路や株元に稲わらや田畑などで刈った草を敷き、被覆するのが有効だ。施設栽培は、施設内の温度上昇を抑えるため、妻面や側面を開けて小まめに換気する。

側枝や下葉などを除去すると風通しが良くなる。ハウスの屋根に遮光資材を設置したり、屋根の上から散水したりすることで屋根面の

温度を下げるのも効果がある。循環扇もハウス内の温度を均一にして高温を和らげる。地温の高いときにかん水すると土壌中の水

温も上昇し、根が傷むため、かん水は早朝と夕方にする。気温が高い日中に収穫すると植物にかかる負荷が大きいため、収穫も早朝に行う。

これから播種（はしゅ）する品目は、高温だと発芽しにくい。前日に畑で十分にかん水し、播種直後はべたがけ資材などを使って発芽を促進する。

収穫期の果菜類は、不良果の摘果や若取りをして樹勢を維持する。樹勢が落ちた場合は効果の早い液肥の葉面散布をする。葉からの蒸散が水分不足の原因になるため、老化葉や黄色葉を取り除く。

葉茎菜類は高温だと、カルシウム不足の

野菜の高温対策のポイント

- 露地野菜は通路や作物の株元に稲わら、刈り草を敷く
- 施設野菜は妻面や側面から小まめに換気
- かん水は早朝と夕方
- 収穫期の果菜類は不良果や老化葉を除去
- 葉茎菜類はカルシウム剤で生理障害を抑制

水稻の高温対策のポイント

- 過剰分けつを中干して抑制
- 高温で窒素不足が見られたら追肥
- 少雨と高温で発生しやすい害虫に警戒



水分の蒸発を防ぐ敷きわら

生理障害であるチップバーンが出やすい。薬剤防除時にカルシウム剤を混用し、発生を抑える。